



©Yuki Asada

## 特産品のコーヒー豆を携帯ストラップに

日本にもたくさん輸入されているエチオピアコーヒー。コーヒーの発祥地として知られるこの国では、今もなお、古くから伝わる伝統的なコーヒーセレモニーが日常的に行われている。コーヒーは、エチオピア人にとっての“誇り”。日々の生活に欠かせないものだ。

首都アディスアベバの下町、リデタ地区。華やかな市街地から一変、貧困層が暮らすこの町で、コーヒー豆を使ったユニークな“モノ”が作られていると聞いてやってきた。

トタン板で作られた集会所に入ると、コーヒー豆とビーズを交互に一つずつ、細いひもに通す女性たちの姿が見ただけで目が疲れそうな作業だが、皆、

表情は実に明るく、笑いが絶えない。

彼女たちは、HIV／エイズの感染者。貧しさ故に正しい知識を得ることができず、地域で拡大しているHIV／エイズの感染を予防すべく、青年海外協力隊の荒井真理子隊員が啓発活動に取り組んでいる。そして、感染者の生計向上手段として彼女が考案したのが、コーヒー豆を使った携帯ストラップ。「ものづくりを通して自信をつけ、地域の中でのつながりを維持してほしい」と荒井さん。女性たちは「自分で収入を得られるようになってうれしい。お金をためてデザインの学校に通いたい」と夢を語るようになった。

コーヒー豆を使った携帯ストラップは、夢への第一歩なのだ。



荒井さん(右)に教えてもらいながら、コーヒー豆とビーズを一つずつひもに通していく女性たち

★コーヒー豆のストラップを12人にプレゼント!  
→詳細は38ページへ

